

TOEFL メールマガジン VOL.75
March 2009

いいね! 0 シェアする

達セミに学ぶ 英語学習のヒント

» [バックナンバーはこちら](#)

英語教師による英語教師のための情報シェアの場「達人セミナー」通称「達セミ」をご存知ですか。毎週のように自発的かつボランティアで全国各地にて開催され、それぞれの授業方法を公開しシェアしています。基本的には中学・高校の教師の方々が中心ですが、その授業には英語を楽しく学ぶヒントがたくさん隠されています。その中から毎月1名の先生にレポートしていただきます。

今回のヒントはこれ：

- 「質問力」でスピーキング力を強化！

東京大学大学院 教育学研究科 教育心理学コース 博士課程
田園調布学園中等部・高等部 英語科非常勤講師
関谷弘毅（せきたに こうき）先生

「スピーキング能力ってどうやって伸ばすんだろう？」

英語をやってきた人であれば、だれでも持ったことのある疑問・悩みでしょう。特に、中級レベルになってくると、ネイティブとの会話において相手の言っていることは大体理解できて、実際自分が口に出している英語は、“uh-huh”、“yeah”、“really?”、“oh”、“I don't know.”といったものばかりということがよくあります。一見スムーズにコミュニケーションができているように見えますが、やはりまとまった厚みのある内容を伝える力、スピーキング能力があるかと言われると疑問です。

そこで本日は、中学や高校、企業での私の指導経験や英語スピーキングテストの理論に基づき、「質問力」というキーワードからスピーキング学習のコツを提案したいと思います。

「なぜ質問力？」と思われたかもしれません。実は質問の中にはたくさんの情報を引き出しうるものと、限定された情報を引き出す質問があります。

1. Do you live in Tokyo?
2. What do you like about your neighborhood?

(1)の質問であれば予想される返答は、“Yes.”や“I live in Tokyo.”など、非常に短いもので終わってしまう可能性があります。それに対して(2)の場合、“I like living in Tokyo, because it is very convenient. I often go shopping and Tokyo has many nice shops. …”というように、よりたくさんの情報を引き出すことのできる質問であると言えます。

すなわち、(1)は限定された情報をピンポイントで引き出すclosed questionまたはsemi-open questionであるのに対し、(2)は自由度が高いより多くの情報を

今月号の更新ページメニュー

▶ 今月の目次

教育関係者向け情報

▶ SELHi校の試行錯誤

読み物

- ▶ For Lifelong English
- ▶ 俳句で一息 Haiku Time

留学／英語学習情報

- ▶ 達セミに学ぶ英語学習のヒント
- ▶ 国別留学情報「あの国で学びたい！」
- ▶ 留学経験者インタビュー
- ▶ My Phrase My Word

オフィシャルサイトへ

- ▶ TOEFLテストトップページ
- ▶ TOEFLテスト教材ショップ
- ▶ TOEFLテスト ITP
- ▶ Criterion

WEBマガジンへ

WEB MAGAZINE

英語で実践！
世界約30か国で
海外短期ボランティア

上記は掲載時の情報です。予めご了承ください。最新情報は関連のウェブページよりご確認ください。

(c) ETS Japan, All Rights Reserved.